

妙高西条農園 おたより

No.136
8月号
2022.8.23



無農薬栽培の黒ニンニクが好評です

今年も発売当初は生産が間に合わなく、ご迷惑をおかけしました。黒ニンニクも5台の製造機をフル稼働して生産しています。その結果今ではご注文を頂いてからお待たせせずに発送出来るようになりました。原材料の黒ニンニクは全て当農園で有機肥料とした黒ニンニクですから安心してご利用ください。左の写真は製造機から取り出した黒ニンニクと、これから仕込む生ニンニクです。(下の写真は製造機です)



コシヒカリの誕生秘話



頭を下げ始めたコシヒカリです 8/20

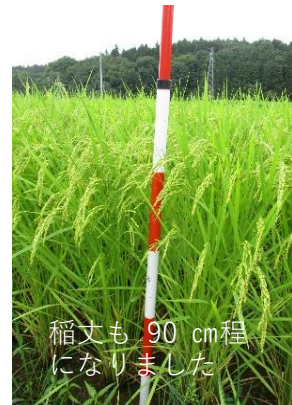
コシヒカリの誕生は私と同じ昭和一九年で今年七八歳になります。新潟県農事試験場(長岡市)で高橋浩之氏により父を「農林一号」母を「農林二号」として誕生しました。農林一号については、私が子供の頃我が家の圃場でも栽培されていたのを覚えています。当時から味が良く、冷害に強い品種といわれていました。

誕生間もなく長岡は空襲に見舞われ、試験栽培もままならないことから、誕生間もない新品種でしたが終戦直後の昭和二三年に福井県農事試験場に里子に出されてしまいました。福井でも石黒慶一郎氏により、試験栽培が継続されましたが、不幸にも福井大地震に遭遇し、試験栽培の継続も大変だったと思われます。(厳しい状況を乗り越えた幸運の子だといわれています)

当時としてはこの新品種も倒伏とイモチ病が心配され、いまいち評判がよいとはいえなかったようです。このような品種を再度目に付け「コシヒカリ」と命名し世の中に普及したのは、当時の新潟県農事試験場長の杉谷文之氏で昭和三十一年に新潟県が奨励品種に採用し、全国にその名を広めるきっかけになりました。その後、千葉県や栃木県でも奨励品種に採用されました。

昭和四四年に自主流通米制度が発足すると、消費者や市場が「良質米・良食味志向」がコシヒカリを後押ししてくれ

たからだと思っています。



稲丈も90cm程になりました

このQRコードから農作業等の動画が見られます。



現在でも各県で新たな品種登録がされていますが、そのほとんどがコシヒカリを元に交配されたものです。新潟県でも20年程前からコシヒカリを改良したコシヒカリBL、農協を主に推奨していますが、食味については、原種のコシヒカリにかなわないと思ひ原種にこだわり、栽培をつづけています。

当農園では更に美味しいコシヒカリを作るため、有機肥料とミネラル土壌改良肥料を15年前から圃場にすき込み、美味しいお米作りに努めています。

コシヒカリの命名に当たっては「越の国に光輝く」ことを願ったものといわれています。

来年のニンニク栽培の準備です



来年のニンニク栽培準備のため、二台目の管理機を購入しました



稲刈りまで除草がつづきます
毎日30度を超える暑い日がつづきますが、畦の雑草も生育が旺盛で刈っても刈っても伸びてくるため田植え後5回目の除草をおこないました。

発行者
〒944-0023

新潟県妙高市西条755
妙高西条農園池田博子
TEL 0255-72-3497
Fax 0255-72-2908